

ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち

国立新美術館（六本木） 2016.07.13～10.10



本展は「日伊国交樹立 150 周年特別展」として、ヴェネツィアの「アカデミア美術館」所蔵の名作品を、本邦で初めてまとまった形で展示・公開する催事である。

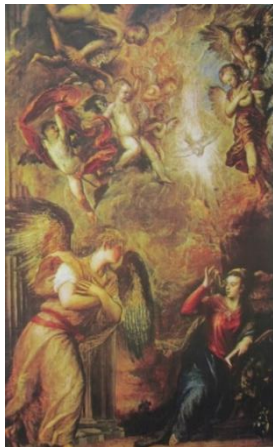
「アカデミア美術館」は、14～18 世紀にかけてのヴェネツィア絵画を中心とするコレクション約 2,000 点を所蔵しているが、今回は“自由奔放な筆致による豊かな色彩表現、大胆かつ劇的な構図を持ち味とする独自の方向性を追求した”厳選された「約 60 点」の名画によって 15～17 世紀初頭に至る作品が紹介されている。

《聖母子》（通称「赤い智天使の聖母」） ジョヴァンニ・ベッリーニ

油彩/板

画伯は、色彩に固執する最初のヴェネツィアの画家（1426/34～1516）で、長年にわたり一連の「聖母子」の作品を制作している。本作品は、“天使は赤い首だけで屋外の澄みわたる風景に聖母子を描いた作品”で、豊かな衣装の「聖母マリア」と膝上に建つ「幼児キリスト」が描かれているのは、当時の得意とした技法で背景の風景と対比されて一層温かい豊かな効果をあげている。

《受胎告知》 ティツィアーノ・ヴェチェッリオ 1560～65 年頃



画伯がヴェネツィア・サン・サルヴァトーレ聖堂の「祭壇画」のために制作し、豊かな想像力に幻惑的なイリュージョニズムを示す傑作で「特別出品」されている。

画面の中でやや右寄りに光彩を置き、人物に当てられる光の加減をドラマチックに表現することによって、画面の色彩配置方法などに大きな特徴が見られる作品である。

マリアの受胎告知の場面は、威圧するような大天使の突然の侵入に、マリアは読書を中断してのぞけるような恰好でヴェールに手をかける。爆発するように天は裂け、狂ったように乱舞する天使たちの間から金色光とともに聖霊の鳩が急降下する。人物や天空の描写に著しく痙攣するような激しい筆触は、床や建築の表現では奇妙に鎮まり、画家の晩年の特有な「灰—褐色—金色」の明暗空間からは、「赤—青—黄」などの固有色が幻惑的な響きを発する作品である。

他の作品としては「クリヴェッリ」「カルパッテョ」「ティントレット」「ヴェローネーゼ」などの名だたるヴェネツィアの巨匠たちの傑作が一举来日する。